

京都会館再整備基本計画

(概要版)

平成 23 年 6 月

京 都 市

再整備の基本方針

● 既存の建物価値を継承し、公共ホールとして再生

近代建築として評価の高い現建物を可能な限り生かしつつ、総合文化活動の拠点及び公共施設として十分な機能を確保

● 「文化の殿堂」として多様な利用ニーズに応えるよう機能向上を図る

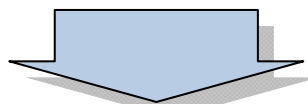
- ・ホールの現代的なニーズに応え、質の高い文化芸術の創造や鑑賞が可能となるよう、舞台機能の向上を図り、建築後51年を経過した京都会館の機能を再生する。
- ・第1ホールは府内唯一の2,000席を有するホールとして、興行を中心とした音楽利用に対するニーズや世界的な総合舞台芸術の利用にも応えられる舞台規模の拡充と舞台機能の大幅な改善を図る。
- ・第2ホールは伝統芸能や演劇の拠点とするなど、京都らしい文化の継承・創造・育成に寄与する利用を見据えて機能再生を図る。
- ・会議棟は会議場を小ホール、多目的スペースと位置付け、約200人程度が鑑賞できる舞台機能を追加する。

● 岡崎地域の活性化や魅力の保全・創出を牽引する機能導入や環境整備

- ・MICEや環境モデル都市など岡崎地域全体で取り組むテーマに対応した機能の充実や、みやこめっせなど、岡崎地域での施設間の連携を目指す。
- ・岡崎地域の活性化まちづくりの牽引役を目指し、優れた景観の継承や、東山を借景とした水と緑の環境空間との調和を図り、二条通沿いの会議棟や東側の公園と連続する中庭等の外部空間を活用し、岡崎地域の賑わいや新たな活力創造に寄与する取組を進める。

● 民間活力の導入と適切なマネジメント展開

- ・従来からある指定管理者による運営面での民間活力の導入に加え、レストランやカフェなどの収益事業の展開など、民間活力の積極的な導入を目指す。
- ・再整備に係る費用は89億円と見込んでおり、コストの効率化を図りながら、ローム株式会社との間で基本合意に至った命名権の売却については、その対価を再整備に充当できるよう協議を進める。
- ・顧客志向の徹底をはじめとした魅力と活力のある文化施設の事業運営に向けたアートマネジメントの展開



上記の方針に基づき、建物価値を継承し、舞台機能を向上させるため、

- ・第1ホールは建て替え、
- ・第2ホールと会議場は耐震性向上やバリアフリー化など全面的な改修を行う。

再整備計画

1. 建物全体に関する主な計画

■ 現行の基準に適合していない耐震性能の改善

- ・新設する補強壁は、外観デザインに影響を与えないよう、既存壁の内側に設置する。
- ・第1ホールは免震設計とし、既存部分は耐震改修することで現行規定に適合させる。

■ 防火や避難等に関する現行規定への適合に向けた改修

防火区画の設置，非常用出入口の設置，排煙設備の設置，非常照明の設置など

■ エレベーター等を増設し，各施設への円滑な動線を確保する。

- ・第2ホールや会議棟等にエレベーターを新設し，上階にバリアフリーで到達できるようにする。楽屋から舞台に至る動線についても，バリアフリーな動線を確保する。
- ・床の凹凸などについては当初の雰囲気を残しながらも解消させる。

■ トイレを増設し，快適性を増やす。

- ・位置の見直しや器具数の増加などにより気持ちのよいトイレ空間を整備する。
- ・特に女子トイレについては十分な器具数を確保し，開演前や幕間に行列による混乱を生じさせないように検討する。

■ ホワイエサービスの充実による楽しさの演出

- ・公演の際に喫茶や軽食を提供できるようにする。飲食スペースについては，会議棟1階を中心に，2階のバルコニー部分の利用についても検討する。
- ・コンサートなどでのグッズ売り場については，現状と同じくホワイエや中庭・ピロティ空間の活用を図る。



再整備後の京都会館のイメージ

2. ホール機能向上に係る計画

(1) 第1ホールに関する主な計画

■ 舞台の奥行きを確保する。舞台袖を拡張する。

- ・ 現行の2,000席を確保することを前提に、舞台の奥行きを20m確保する。舞台袖については、使い勝手が悪くならないように柱や梁をなくし、空間を有効に活用できるようにする。

■ 舞台上部空間を拡げ、吊物機構を改善し、演出の幅を広げる。

- ・ 現状の第1ホールは舞台の奥に行くほど狭く、低い構造になっているため、舞台の上部を有効に活用することができない。よって、演出の幅を広げられるよう、フライタワーを設置し、舞台内高さを27m確保できるように、舞台の上部空間を拡大する。
- ・ フライタワーにはすのこを設置するとともに、現状8本しかないバトンの数を増やし、演出の可能性を広げる。

(2) 第2ホールに関する主な計画

■ 舞台袖の高さを確保する。

■ 舞台上部空間を拡げ、吊物機構を改善するなど、演出の幅を広げる。

- ・ 演出の幅を広げられるよう、舞台上部空間の拡大を検討する。
- ・ 現状15本のバトンの本数を増やし、演出の可能性を広げる。

■ 座席数を800程度に減少させ、ゆったりとした客席空間とする。

(3) 会議棟に関する主な計画

■ 会議場は、舞台利用にも対応する機能の充実を図る。

- ・ 会議棟2階の会議場は、演劇等の催物も可能な小ホールとして、各種機能の充実を図る。そのため、外部からの遮光や遮音への対応や、吊物設置、1階からの資材等の搬入について検討する。

(4) 舞台設備やその他機能に関する主な計画

■ 舞台設備を更新し使い易くする。

■ 舞台の電源容量を増やし、様々な興行に対応できるようにする。

■ 音響の改善

■ 現状問題のある第1ホールと第2ホールの遮音性を向上させる。

(5) バックステージに関する主な計画

■ 舞台裏（バックステージ）に係る全体面積を広くする。

■ 楽屋を広く・キレイに・使いやすくする。

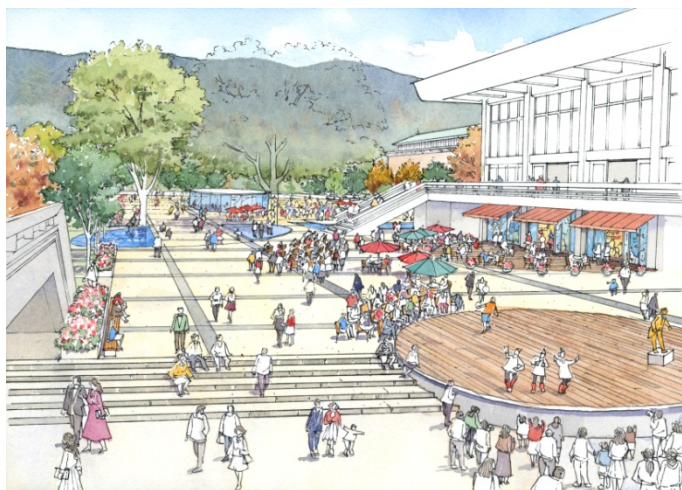
■ 第1ホールの搬入スペースを改修し、搬出入作業を向上させる。

- ・ 舞台面を地表面近くまで下げ、車両からリフトを使うことなしに資材を搬入できるようにする。

3. 施設や外部空間の魅力向上に向けた計画

■ 岡崎の賑わい創出に資するよう、中庭やテラス等の外部空間を再整備する。

- ・中庭空間は、東山の景観を借景に、隣接する岡崎公園と一体となった憩いの場として整備する。
- ・二条通沿いは会議棟1階の賑わい施設導入とあわせて開放的なテラス等の整備を行い、沿道空間と一体になった賑わいの創出を目指す。



隣接する岡崎公園と一体となった中庭空間のイメージ

■ 会議棟を岡崎に相応しい賑わい施設に用途転換

- ・1階にはカフェやレストランなどの導入により、ホール来館者だけでなく岡崎地域全体に訪れた方が利用できるようにする。
- ・会議場は演劇やライブ、レセプション、ダンスなど小ホールとしての使用や各種催物を開催できる多目的なスペースとして改修整備する。
- ・現在の各会議室は、管理諸室の確保のほか、練習や制作などに使用できる多目的な諸室として整備する。

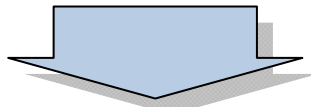


会議棟1階のカフェやレストランと一体となり、賑わいを創出する二条通沿いのイメージ

再整備の課題と対策

● 舞台機能の向上と建物価値の継承保存及び周辺景観との関係

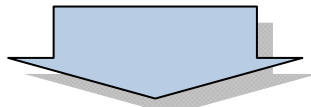
- ・日本建築学会からの保存要望（現建物が持つ建築的価値，歴史的価値の尊重）
- ・建て替える第1ホールの西側と北側の外壁位置は現行と変えず，既存デザインを踏襲し，再生を行う。
- ・京都会館全体としての建物価値継承
- ・舞台機能を向上させるためには，舞台奥行の拡大とともにフライタワーを設置し，舞台内高さを確保することが必要



- ・東山を望む二条通沿いの景観を構成する会議棟や第2ホール，ピロティや中庭に至る空間構成については保存する。
- ・第1ホールは府内唯一の2,000席を有するホールとして，多様なニーズに応えられるよう舞台機能を向上させるために建て替える。
- ・基本設計の段階で，建築等の専門知識を有する学識経験者から構成される委員会を設置し，建て替える第1ホールの外観意匠の在り方と京都会館全体の建物価値の継承について検討する。

● フライタワー設置による建物高さへの影響

- ・フライタワー設置により，建物高さが現状の27.5mから約30m程度になる。



- ・現在，岡崎地域の活性化に向けて，京都会館だけでなく地域全体の都市計画の見直しが進められている。
- ・その中で京都会館についても，建物の高さや用途に関する制限を含めて再整備に必要な都市計画の見直しを検討していく。

再整備後の運営方針

● ホール運営方針の明確化に向けて

- ・貸館事業に加え、芸術活動団体が制作拠点を置く創造・発信する施設を目指す。
- ・予約開始時期を現状の9箇月前から前倒しするなど具体的な検討を始めていく。
- ・興行利用時の柔軟な運用や招へい公演の受け入れ、舞台芸術の創造・発信団体に対する継続使用など、多様なニーズへの対応を考える。
- ・公共ホールとして市民の方々の利用を中心に置きながら、稼働率向上に向けて、より柔軟な運用ができる仕組みを考える。

<予約開始時期の検討例>

- 公演が数年前から企画されている海外からの招へい公演や、コンベンション等で全館を貸切り使用する場合は3年前から
- 京都会館を拠点に舞台芸術の創造・発信を行う団体が自らの公演とそのための練習に使用する場合や、毎年継続して同じ時期に使用する場合は2年前から
- 上記以外の利用は1年前から

● 総合舞台芸術の公演が可能な多目的ホールとしての第1ホール

- ・クラシック音楽については京都コンサートホールとすみ分けし、従来どおり吹奏楽や合唱などには十分対応できるようにする。
- ・総合舞台芸術については、近隣のびわ湖ホールと競合しないように、自主制作は行わず、制作拠点を置いてもらいやすい仕組みを整えるほか、国内外の巡回公演にも対応できる運営方針を取っていく。

● 京都における舞台芸術のメインホールとしての第2ホール

- ・伝統芸能から現代演劇までの舞台芸術に関する京都のメインホールとして整備し、ミュージカルなどの新たな利用も念頭に置き、京都国際舞台芸術祭のメイン会場としての活用を目指す。

● 会議場から多目的スペースへ

- ・会議場については演劇用の小ホールとしても、国際会議やその後のパーティー等にも積極的に活用し、利用率を上げていく。
- ・演劇やダンス等については、一定期間の練習にも使えるよう、運営面で工夫する。

● 文化芸術の発展に向けた運営

- ・中長期的な事業の実施や企画を積極的かつ円滑に行うため、京都市と一体となって運営を行う指定管理者の選定と、京都会館で創造・発信を行う芸術活動団体にスペースを提供し、京都の文化芸術の発展に向けて協働することを検討する。

用語の説明

M I C E

Meeting, Incentive, Convention, Event/Exhibition の頭文字を取ったもので、それぞれM（企業のミーティング等）、I（奨励、報奨など）、C（会議、集会など）、E（行事/展覧会など）を指す。ビジネスイベント、ビジネストラベルのこと。

ホワイエ

ロビー空間をいう。ホールの入口から観客席に至るまでの通路を兼ねた空間で、待ち合わせや休憩、歓談の場として使われる。

フライタワー

舞台上部に位置し、背景の幕や道具を引き上げたり、照明器具を吊っておくための空間

バトン

舞台機構の一種で、舞台照明器具や音響スピーカー、幕類、美術オブジェ等を吊るして昇降させるための棒のこと。

すのこ

フライタワー内に設置し、バトン等を吊るしておくための棚。ぶどう棚ともいう。